

## 1. 都市づくりの理念

### 1-1 標茶町の将来都市像

標茶町の上位計画である「標茶町第3期総合計画」のまちづくりのテーマは、「夢を織りなす『標茶活力』の結集～一人からはじまるまちづくり～」としています。

これは、標茶の風土の中で、町民が豊かな暮らしを可能とするには、一人ひとりがどのような価値観を持ち、どのような生き方を求めて行くかにほかなりません。

標茶のまちづくりは町民の活力や文化を育てるものであり、その活力や文化は生活のなかに息づくものです。

そして、その生活をより豊かにしていく一人ひとりの努力がまちづくりの一つひとつの要素であり、その積み上げ結集が標茶のまちづくりです。

自由に意欲的に、夢とロマンを持ち続け行動する標茶人がたくさんいます。

はじめは一人でも、みんなの夢を1本の糸に見立て、タテ・ヨコに織って行きましょう。

そして出来上がった生地に、標茶に無限にある素材＝活力（パワー）である、豊かな自然環境や、農業の恵み、ロマンあふれる標茶人を標茶活力として結集し、デザインし、21世紀の新しい時代に向かって自立する標茶町を築くことをめざしています。

「本都市計画マスタープラン」では、上記「夢を織りなす『標茶活力』の結集～一人からはじまるまちづくり～」を受けて、都市づくりの主体は、その地域に住み、働き、活動する住民、事業者・団体などであり、目指すべき都市像の実現を図るためには、住民一人ひとりが、まちの未来を創るのは自分たちであるという意識を持ちながら、年齢や職業、社会的な立場、居住地などが異なる様々な人々がその世代や職業、立場などを超えて、一人ひとりが公共の視点を持って共にまちを創るという意志を強く持ち、その役割と責任を果たすための都市づくりへの主体的な参加が必要です。

こうした都市づくりへの主体的な参加を基にした都市づくりを進めるためには、都市づくりに参加する「ひと」を育てていくことが「まち」を育てていくことの第一歩と言えます。

また、本町の名前の由来は、アイヌ語の「シペッチャ」が語源で「大川のほとり」を意味しており、川は人々の生活に大きな関わりをもってきました。

明治の川船による水運の交通路から始まり、川の恵みを十分に受けた生活基盤としての役割、人びとの交流の場、自然とのふれあい、やすらぎの場として、また、市街地の景観の中心的な役割を担ってきた釧路川を源として、東西にコンパクトにまとり発展してきた市街地であり、今後も広大な河川空間を軸として、土地利用の明確化や都市的基盤施設の充実、安心して暮らせる環境整備等に加え、町民が快適に生活を送ることができる都市づくりを目指します。

このような「まち」を創るために、住民・事業者・行政のそれぞれの役割分担を明確にし、それぞれが役割と責任を果たしながら、住民・事業者・行政の連携・協働によって『ひと』と『まち』を育てていくことを基本姿勢とします。

したがって“『ひと』が育てる快適な『まち』”「充実したコンパクトタウン：しべちゃ」を都市づくりの理念として設定します。

■都市づくりの基本理念イメージ

